

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	11		学 校 名		茨城県立太田西山高等学校				課 程		全日制		学校長名		菊 池 幸 恵			
教 頭 名	小 林 隆								事務長名		小 林 隆 寛							
教職員数	教 諭	35	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	3	非常勤 講 師	7	実習教諭、実習 講師、実習助手	1	事 務 職 員	3	技術職 員 等	6	計	59		
生 徒 数	小学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	普 通 科	43	37	67	69	67	87			177	193	12						

2 目指す学校像

1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校
2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校
3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校
4 地域に愛され、信頼される学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	人間力を高め、地域を支え活躍する人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	主体的に学び続けることのできる生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	- 生徒の80%が、各教科の学習指導に関して様々な工夫がなされていると感じており、生徒の78%が授業はわかりやすいと考えている。 - 生徒の77%が家庭学習を行い、授業に前向きな態度で取り組んでいるが、定期考査等では基礎学力の不足や継続的な家庭学習の不足が見られる。	- 基礎学力の定着から応用力の育成と、家庭学習習慣の定着を図るため、I C Tを効果的に活用するなど、わかりやすい授業を展開する必要がある。 - I C Tを活用した意見の集約や、GoogleClassroom等の活用を推進する。
進路指導	- 保護者の72%は、本校の進路指導が充実していると感じており、生徒の84%は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。 - 多様な生徒の進路希望に対応した、進路情報の提供や進路指導を実施している。	- 個別指導の充実を図り、一人一人に応じたきめ細やかな進路指導を展開する必要がある。 3年間を見据えた進路指導を計画的に実施し、将来の目標を定め、キャリア教育の推進によって社会とのつながりを見据えた取り組みを行う。
生徒指導	- 保護者の37%は、本校生の通学マナーをあまり良くないととらえている。また、保護者の45%が挨拶もあまり良くできてはいないと感じている。 - 校内ではルールやマナーを守って生活ができている状況ではあるが、多様な生徒に対応した、個別の継続的な指導・支援が必要な生徒が見られ	- マナーの向上や基本的生活習慣の確立を図るため、全職員の共通理解のもとに指導を継続する必要がある。 - 生徒理解のための個別面談を充実させ、生徒の心に寄り添う指導体制の確立が必要である。

	る。	・学年や生徒指導部による組織的対応と、問題行動等の未然防止と早期対応を推進する。
特別活動	・コロナ禍でも感染対策を講じた上で、学校行事や生徒会活動を精選して実施した。 ・生徒会が自主的に文化祭とスポーツフェスティバルを一体化させて実施した。また、卒業式や入学式で校舎内を装飾するなど独自の企画を考え実施した。 ・生徒が部活動紹介動画を作成するなど主体的な活動が見られた。 ・長期休業明けの集会等の簡略化を行った。	・生徒を学校生活に主体的に取り組ませ、生徒の自己有用感や自己肯定感を高めるために、キャリアパスポートを活用し、連携のとれた指導体制の確立を目指す。 ・生徒会活動や委員会活動における生徒の自主的・主体的な活動の支援を目指す。 ・部活動については、複数顧問体制の導入と、質の高い合理的で効果的な指導を目指す。
働き方改革	・毎週月曜日の定時退勤日と、19時の完全退庁時間を設定した。 ・ＩＣＴを活用した各種調査等の実施による業務の効率化を図った。 ・職員朝会を毎週３回から２回に減らし、朝の業務負担を軽減して学年の打合せ時間を充実させた。 ・生徒の欠席連絡にGoogleFormsを活用し朝の業務負担軽減を図り、放課後の電話対応を18時30分までとして、電話対応の業務を軽減した。	・完全退庁時間は概ね守られるようになったが、定時退勤日が徹底されていない。 ・各種調査や連絡等でＩＣＴを活用した業務の効率化を図る必要がある。 ・校務分掌等で業務負担の均一化を図る必要がある。

5 中期的目標

- 1 3年間を通して、ライフスキルの向上を目指す取り組みを実施するとともに、生徒個々に応じた教科等及びキャリア教育の指導に努め、多様な進路希望の実現を目指す。
- 2 社会に参画する力を高めるため、特別活動（体験活動・生徒会（常任委員会・ホームルーム））等や部活動を通じて、生徒が自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、協働する教育活動の充実に努める。
- 3 探究しながら課題を解決する力を育むため、アクティブ・ラーニングやＩＣＴを活用した授業の推進に努める。
- 4 働き方改革を推進するため、ＩＣＴを活用し業務の効率化を図り、在校等時間の削減に努める。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上	・生徒の実態に即した授業の展開を通して、基礎的知識及び技能の向上と学習意欲の喚起に努める。 ①アクティブ・ラーニングによる主体的な学びに向かう力を育成するための授業改善。 ②基礎的な知識及び技能の定着と、探究活動による思考・判断・表現する力の育成。 ③ＩＣＴ教育推進委員会を中心とした、授業におけるＩＣＴを活用した授業展開と家庭学習の定着。
2 キャリア教育の推進による、生徒一人一人に適した進路の実現	・個に応じたきめ細かな進路指導を充実するとともに、生涯にわたって充実した生活が送れるよう、生徒一人一人に適した進路の実現に努める。 ①ライフスキル教育を基盤として、コミュニケーション力を高める等の資質・能力を向上させてキャリア教育の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用し、自己有用感や自己肯定感を高め、自己分析や自己管理を深める。 ③多様な生徒の進路の実現に向けた、進路情報の提供と組織的で体系的な進路指導。
3 生徒指導の充実	・多様な生徒に対応した個に応じた生徒指導と、問題行動の未然防止を重視した生徒指導により、生徒の自律から自立を育む。 ①問題行動の未然防止を重視した、学校内外における指導体制の確立。 ②全教職員による一体感とスピード感をもった問題行動への対応。 ③他の機関と連携した、個に応じた生徒支援の推進。
4 シティズンシップ教育の推進による主体的に社会の形成に参画する力	・ライフスキル教育を通して、自主的・自律的な態度の育成に努める。また、特別活動を通して、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚と、課題を見つけ他者と協力して解決する能力を育み、社会の

の育成	形成に参画できる資質・能力を養う。 ①生徒の主体的・自主的なH R活動、生徒会活動、学校行事を支援する。 ②カウンセリングマインドをもって傾聴する個別面談や教育相談体制の充実。 ③シティズンシップ教育により、自分たちの課題を話し合い、課題解決に向けた主体的な活動を支援する。
5 地域、保護者との交流・連携による教育活動の充実	・地域の歴史や現状を学び、地域の人材を活用して、地域理解や地域の課題を探究する。また、地域に信頼される学校を目指して、地域や保護者の理解がえられるように努める。 ①保護者との緊密な連絡と連携。 ②中学校訪問や説明会及びH P等による情報の発信。 ③地域の人材を活用して地域理解を深める。
6 働き方改革の推進	・勤務時間削減のため、業務の効率化と質の向上、業務負担の均一化を目指す。 ①定時退勤日・完全退勤時間の徹底。 ②I C Tを活用した業務の効率化（各種調査等のI C T化）とI C T教育の推進（反転学習や確認テストの配信）。 ③校務分掌の業務内容を確認して、負担の均一化を図る。また、部活動時間の遵守による負担軽減を図る。
7 授業改善の推進	・生徒による授業評価を活用し授業改善を推進する。 ①授業評価で、授業を通して、できなかったことができるようになった平均3.5以上を目指す。 ②授業評価で、授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた平均3.0以上を目指す。 ③授業の目的が明確で、授業内容がわかりやすく工夫されていた平均3.5以上を目指す。